

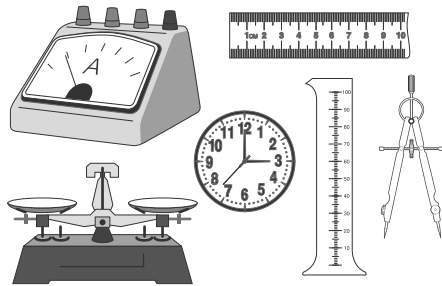
単位の話 (1) 国際単位系

ものの大きさを測る時は単位が使われます。

歴史的にみると、どんな量を基本単位として選ぶかは地域や職域によって大きく異なってきました。例えば、日本では場所や建物などの大きさをいうときには尺貫法が使われていました。また、イギリスやアメリカではヤードポンド法が一般的に使われています。国際的な統一単位の基礎となったメートル法も、初期の頃はフランスにおける地域的単位にしか過ぎませんでした。

メートル法が国際的な地位を得たのは1875年のメートル条約が締結された時からです。しかし時代とともに多数の分派^{*1}が発生し互いに換算することさえ困難な状況になってきました。そこでこれらの分派を排除し、もう一度統一をはかろうとして国際度量衡総会が定めたのが次ページの図に示した「国際単位系」(略称SI単位系)です。

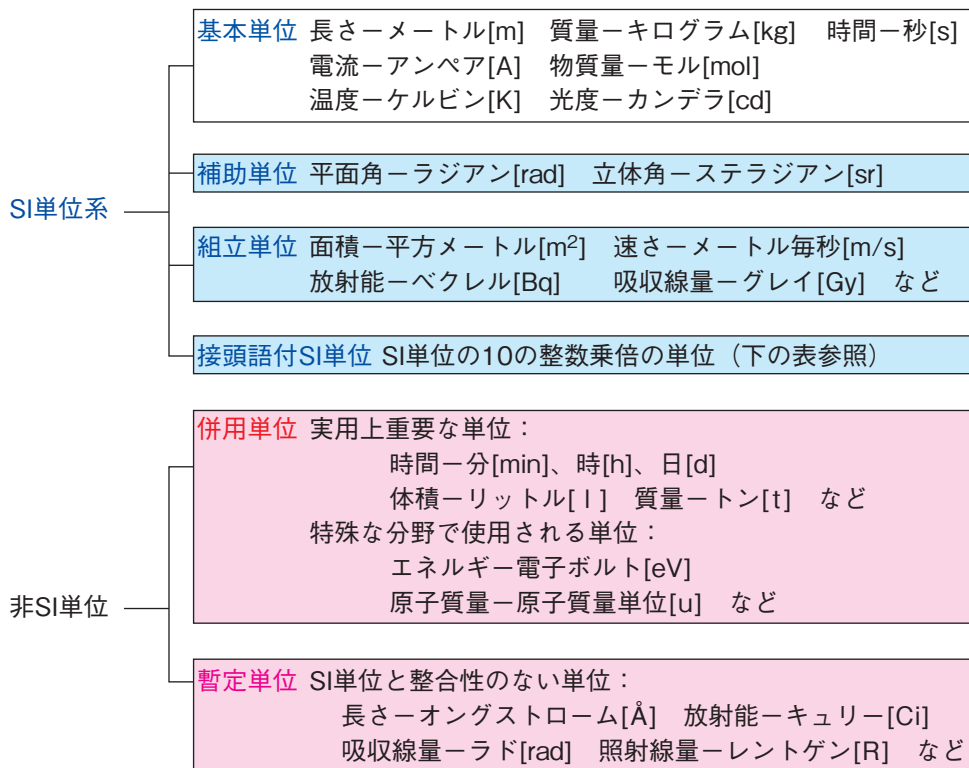
SI単位系は、7種類の**基本単位**、2種類の**補助単位**、そして基本単位と補助単位の組み合わせで表される**組み立て単位**の総称です。また、単位にかけあわせる10の倍数を次のページの表にあるような**接頭語**で表します。



また、いくつかの実用上重要な単位(併用単位)や、特殊な分野で特に重要な単位(暫定単位)が、SI単位系と一緒に使用する単位として決められています。

*1 CGS単位系、MKS単位系、MKSA単位系、重力単位系など。

国際単位系及び併用される単位



SI単位系の接頭語

倍数	接頭語の名称	記号	倍数	接頭語の名称	記号
10 ¹⁸	エクサ	E	10 ⁻¹	デシ	d
10 ¹⁵	ペタ	P	10 ⁻²	センチ	c
10 ¹²	テラ	T	10 ⁻³	ミリ	m
10 ⁹	ギガ	G	10 ⁻⁶	マイクロ	μ
10 ⁶	メガ	M	10 ⁻⁹	ナノ	n
10 ³	キロ	k	10 ⁻¹²	ピコ	p
10 ²	ヘクト	h	10 ⁻¹⁵	フェムト	f
10	デカ	da	10 ⁻¹⁸	アト	a